

「わたむき自動車プロジェクト」推進協議会について

1. 設立趣旨

関係機関の緊密な連携と協力のもと、日野町内における持続可能な交通ネットワークの形成に向けての検討と実証実験を行い、日野町内における持続可能な公共交通体系構築に向けた取り組みを推進し、町民福祉の増進と地域経済の発展、脱炭素地域づくりの推進を図る。

<名前の由来>

戦前に日野商人・山中正吉氏が日野町内で経営していたバス運行会社である「綿向自動車株式会社」をモチーフとして、地域が一丸となって持続可能な地域内の交通について考えていくという気概を込めて命名したもの。

2. 取組の特徴

(1) 過疎地モデルではない公共交通施策

人口減少～利用者が減少するという前提を持った過疎地モデルではなく、工業団地に企業群が立地し、昼間流入人口が流出人口よりも多いという日野町の特徴を「強み」として、その移動需要を公共交通にシフトし公共交通を活性化させるなど、日常利用を中心に「利用者を増やすこと」を目指す。

(2) あらゆる移動需要に対応し、あらゆる方々が使える公共交通施策

交通弱者のみを対象とするのではなく、あらゆる人を対象として、通勤・通学や通院などの「必要な移動」はもとより、「イベントへのお出かけ」、「町内飲食店等への往復」など、これまで町営バスがあまり対象としてこなかった移動需要にも応えたマイカーに頼り過ぎない、環境にやさしいまちを目指す。

取組にあたっては、鉄道、バス、タクシー、自転車、小型モビリティなどあらゆる手段をうまく組み合わせて利用できる体系を目指す。

(3) まちなかのにぎわいづくり

移動した先の「楽しみ」となる賑わいづくりを並行して進め、公共交通活性化を通じて、町内経済の活性化を推進していく。また、乗換拠点でのにぎわい創出をあわせて進める。

3. 事業概要

(1) 公共交通体系の構築

町で働く人、町で暮らす人、町で過ごす人、あらゆる方々がマイカーに頼り過ぎることなく、地域を移動できる体系を構築する。構築にあたっては、通勤・通学、通院などのほか、町内行事参加や料理飲食店等利用など「あらゆる移動需要を満たすことが出来る体系」を目指して、「官民共創」により、最新のデジタル技術を積極的に導入していく。

- ・Agoopとの連携協定に基づくビッグデータ解析による移動需要の把握
- ・地方自治研究機構との調査事業

- ・各関係者へのヒアリング等
 - 町営バス等路線・ダイヤの検討
 - オンデマンド交通の導入検討
 - 通学バス運行体系の検討
 - 町営バス等の運賃についての検討

(2) 公共交通による地域活性化、移住・定住促進や関係・交流人口の拡大

町内周遊促進の仕掛けづくりや乗換拠点（ターミナル）での「楽しみ」づくりを進め、公共交通を利用した移動による町内商工事業者の活性化や観光施設の活性化を推進するとともに、町外からの移住・定住促進や、テレワーク等推進等の取組とも連携して、関係・交流人口拡大を図る。

- ・アプリ等を活用した町内周遊の仕掛けづくり
- ・乗換拠点（ターミナル）での賑わいづくり
- ・移住・定住促進施策、空き家活用ほか、まちづくりとの連携

(3) 令和3年度事業の概要

○協議会による実証実験

① 通勤・通学における移動を転換

- ・工業団地への通勤（ダイフク、オーケーエム）の公共交通への転換を促進
（桜川駅、日野駅での近江鉄道・近江バスから通勤バスへの乗換）
- ・湖南サンライズから必佐小学校への通学をバスに転換

② 周遊アプリを活用した町内周遊促進

4. 「わたむき自動車プロジェクト」推進協議会 構成団体

日野町
滋賀県
近畿運輸局滋賀運輸支局
近江鉄道株式会社
一般社団法人日本自動車販売協会連合会滋賀県支部
一般社団法人滋賀県バス協会
輪の国びわ湖推進協議会
日野町商工会
日野観光協会
株式会社ダイフク
株式会社オーケーエム
株式会社 Agoop
株式会社スカラ